

1 簡単化(minimization)

2 最小化と訳している例もある。本解説では単純化と訳した。現象を理論化・法則化して
3 説明するときに、できるだけ単純な言葉で説明すべきである。これが簡単化する理由で
4 ある。だが、単純化した法則は、当然、例外を作り出す。コペルニクスの地動説が受
5 け入れられるのは、地動説が正しく、天動説が間違っていることが証明されたからでは
6 ない。地動説が天動説で説明できる現象をすべて説明したうえで、天動説が説明できな
7 い現象を説明できるからである。説明できない現象を、例外として放り出すのではなく、
8 よりひろく現象を説明できる法則を選ぶべきである。つまり、被覆度（全体の事例の中
9 で、それによって説明できる事例の割合）を高く保って、最小化する。このバランスの
10 中で、簡単化（単純化）が行われ、最終解が選択される。これが、QCA の分析である。
11 このプロセスを厳密に行えば、論理的に妥当な解が得られる。ここに問題はない。しか
12 し、それ以前の段階、全の段階、閾値やメンバーシップ値の決定において、被覆度を上
13 げるためにメンバーシップ値を操作すると、一種の過剰適合（その事例だけに説明能力
14 が高く、他の事例には当てはまらない現象）になる可能性が高い。
15